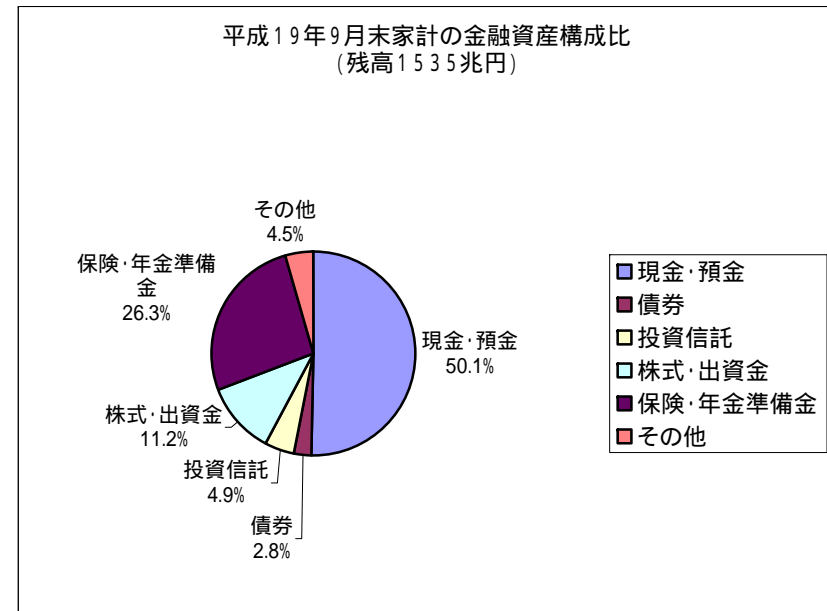
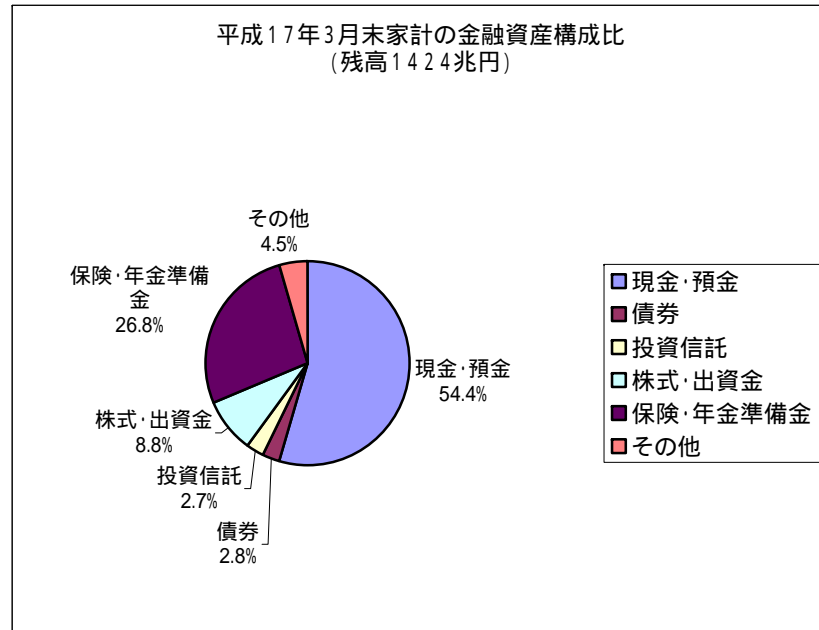


銘柄選びのコツは？

1. 今、「貯蓄から投資へ」

わが国の個人の金融資産は、平成17年度末に約1,500兆円に達しました。

そのうちの半分以上が預貯金で占められていますが、「貯蓄から投資へ」の流れの中で、株式投資の構成比は平成16年度の8.8%から平成17年度には11.8%と着実に増加しています。逆に現金・預金の構成比は、54.4%から51.2%へ減少しています。



(出典：日本銀行 資金循環統計資料より当社で作成)

2. 値上がり益狙いだけが株式投資じゃない

(1) 配当

株式投資というとまず頭に浮かぶのが値上がり益です。投資する会社が企業価値を向上させて株価上昇につながることを期待するわけです。しかし「配当」というインカムゲインをお忘れなく。

そもそも株主は株式会社の所有者なので、保有株式数に応じて毎期、会社の上げた収益の分配(配当)を受ける権利を持っています。一般に業績が増益であれば配当の増加(増配)が望めますし、減益や赤字になってしまうと減配・無配が心配になります。配当水準も株式投資の重要な投資判断基準なのです。ここでは会社利益のうちどのくらい配当に回しているか(配当性向)や、配当の株価に対する比率(配当利回り)が有益な指標になります。

配当利回りランキングは、ヤフージャパンのホームページ(ファイナンス>株式ランキング>配当利回り)などで見ることができます。

(2) 株主優待

全上場企業の3社に1社が、何らかの形で「株主優待」を行っています。

これは配当以外に会社が株主に提供するプレゼントといえましょう。株主優待も保有株式数が基準になります。

株主優待情報は、ヤフージャパンのホームページ(ファイナンス>株式ランキング>株主優待情報)などで見ることができます。

3. でも、値上がり益狙いが本来の株式投資では？

そのとおりです。

株式投資の醍醐味はやはり「値上がり益狙い」です(高度なテクニックを使う人は「値下がり益狙い」も)。

「株式の銘柄選び」は株式投資の初歩(基本)であり、また究極のテーマでもあります。巷には日刊・週刊・月刊を問わず、銘柄情報誌が溢れています。株式投資のノウハウやテクニカル分析を掲載した本も売られています。これだけ大量の書籍が本屋さんに溢れているということは、専門家も含めて投資家の皆さんがそれだけ株価の先行きが分からないということの証しです。

他の人からの情報で銘柄を選ぶ方法もありますが、自分で銘柄を探すという観点で考えて見ましょう。では、銘柄を選ぶコツは？

(1) 身近な生活の中から

テレビのCMを積極的に見よう！

テレビを積極的に見て（それも民間放送を）CMに注目。今までにあまりなじみがなかった会社のCMが目立つようになったら、その会社に注目しましょう。買うことができる会社（上場か非上場か）かどうかは「のぞみ証券の本支店の窓口」にお問合せください。

自分が使っていたり、世間の評判の良い「お気に入りの製品」はどこ会社のもの？

例えば化粧品、洗剤、洋服など、自分が使用してみて使い勝手の良い商品は、他の人も気に入れば会社としての販売量が増えてくる筈です。

人の噂は？

株の世界は「噂」が結構重視されます（「風説の流布」は証券取引法で禁じられています。=懲役もしくは罰金）。かつてのオイルパニック時のトイレトーパー騒ぎや、銀行「取り付け騒ぎ」等に見られるように、人々の噂・口コミは結構社会生活に及ぼす影響が大きいものです。株式も「噂」だけで大きく動くケースが少なくありません。アンテナを広く張って噂をキャッチするのも大事なことです。

「市場の噂」を手に入れやすい物として「業界新聞」「駅売りの夕刊紙」「週刊誌」などがあります。

(2) データを活用する

会社の業績を知る

最近決算発表も年間（通期）・中間期（半期）・四半期ベースが発表され、以前よりも会社の内容を知る機会が増えました（新聞・経済雑誌）。

テクニカル面から「割安株」を探す

「チャート（罫線）」などを利用して、その会社の株価の今後予想される傾向を推測する（チャート分析はやや高度なために経験が必要ですが、何となく感じをつかまえるだけでもOK？）

一般的に多く用いられるテクニカル指標を知る（計算の方法よりも計算されたデータを参考にすればよい）

「株価収益率（PER）」、「配当利回り」など

時流に乗った話題の材料(テーマ)を生かそう

「資源」「環境」「バイオ」「ハイテク」「内需」「光ファイバー」などなど、常に市場にはその時々テーマが存在します。これらについてのデータ・情報は のぞみ証券を積極的に活用してください。詳しくは弊社の本支店の窓口へ！

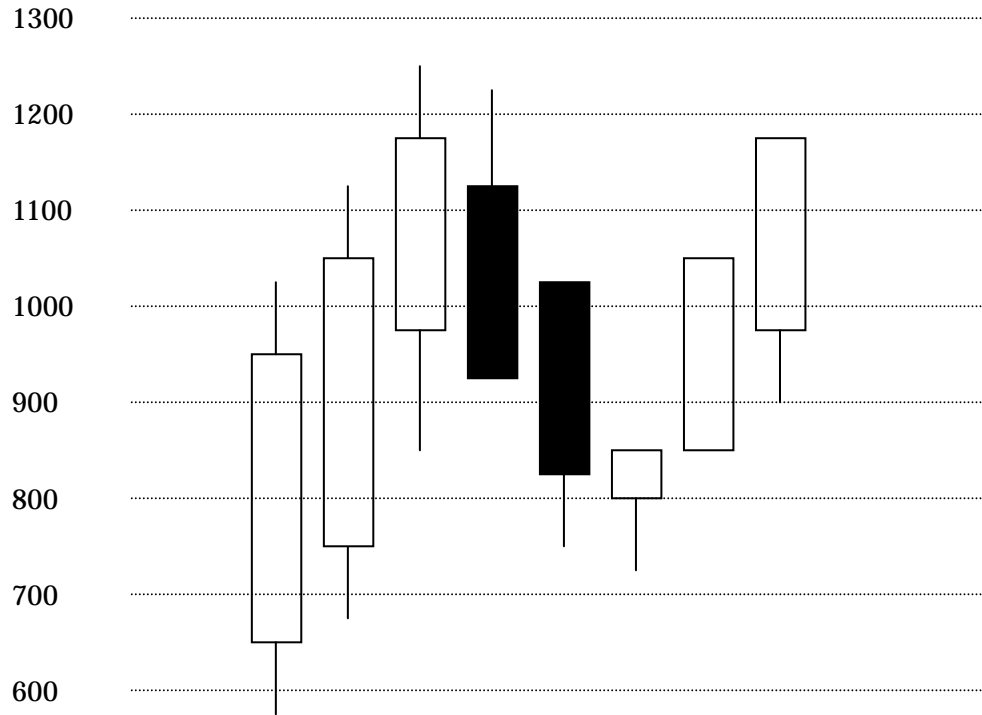
(3) 買う銘柄が分からないときは「ETF(株価指数連動型上場投資信託)」も検討してみてもいい？

「ETF」とは「日経平均」や「TOPIX(東証株価指数)」また「銀行株指数」など、株式市場全体や業種別の動きを表す「株価指数」に連動するように設計され、東証などに上場されている「投資信託」です。これは売買方法も税金も株式と同様の扱いを受けています。「株価全体が上がりそうだが、何を買って良いか分からない」とか、「銀行株が値上がりしそうだが、どの銀行株を買えば良いのか？」など銘柄選びに困ったときには、とりあえず「ETF」を買ってみるのも一つの方法といえるでしょう。

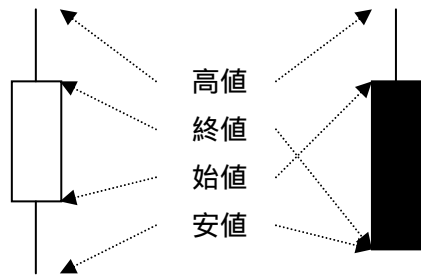
(4) 会社四季報の活用

株式投資のバイブル的存在として「会社四季報(東洋経済新報社刊)」と「会社情報(日経新聞社刊)」の2種類が発行されています。これは上場会社の業務内容から業績・株主また過去の株価に至るまで詳しく掲載されていますので、株式投資には大変参考になります。会社四季報はCD-ROMでも発売されています。

4. チャート



チャートとは、相場の価格や指数などを記録したグラフです。代表的なものに左の図のような「ローソク足」と呼ばれるチャートがあります。「ローソク足」は、1日や1週間といった一定期間の始値、高値、安値、終値を左の下の図のように表します。1日の値動きは「日足」、1週間の値動きは「週足」といいます。白い線は、陽線といって始値より終値が高かったもの、黒い線は、陰線といって始値より終値が低かったものです。この「ローソク足」の形や組み合わせで、今後の株価を予想していきます。



5. 各種投資指標(以下に取り上げたもの以外にいろいろあります)

(1) 株価収益率

一株当たりの利益に対して株価がどのくらい買われているかを見る指標を株価収益率 (PER) といいます。一般的に PER が低いほど割安、高いほど割高と言われますが、利益成長の高い会社ほど、割高に買われる傾向にあります。

株価収益率 (倍) = 株価 ÷ 1 株当りの純利益

(2) 株価純資産倍率

一株当たりの純資産 (全資産から負債を差引いたもの) に対して株価が何倍に買われているかを見る指標を株価純資産倍率 (PBR) といいます。PBR が 1 倍ということは株価が、会社の解散価値と同じということになります。

株価純資産倍率 (倍) = 株価 ÷ 1 株当たり純資産

(3) 株主資本利益率

株主が会社に投下した資金 (株主資本) を会社がどのように運用し、利益を出しているかを見る指標を株主資本利益率 (ROE) といいます。一般的にこの指標が高いほど、有効に資本を活用し、利益を出している会社だと言えます。

株主資本利益率 (%) = 当期純利益 ÷ 株主資本 (期首・期末平均) × 100

(4) EV / EBITDA

税引前利益に支払利息と減価償却費を加えたもの (EBITDA) に対して企業価値 (時価総額から有利子負債、現金預金、短期有価証券を差し引いたもの = EV) が何倍に当るかという指標で、M&A の際に企業価値を見る指標としてよく使われています。

(5) 配当利回り

株価に対する配当金の割合です。

配当利回り (%) = 1 株当り年間配当金 ÷ 株価